

再発又は難治性の多発性骨髄腫

ダラキューロ+ホマリスト+デキサメタゾン(DPd)併用療法 患者プロトコル

催吐リスク
軽度
放射線併用なし

投与プロトコル 1コース:28日間 制限なし 《開始時基準 PS:0-2、年齢:18歳以上》	投与量	投与日	投与時間	備考
---	-----	-----	------	----

1,2コース目

プレメディ(内服)	モンテルカスト10mg	(1コースday1のみ全例必須)※1	1時間前	※1 1コースday8以降 モンテルカストは任意
	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン1000mg)	day1,8,15,22	1時間前	
内服	レナデックス:20mg/body/日※3	mg/日	day1,2,8,9,15,16,22,23 [75歳未満] day1,8,15,22 [75歳以上]	※2 レナデックス (ダラキューロ投与日)は、 ダラキューロ投与の1時間前 に投与
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ:1800mg/body	mg	day1,8,15,22	皮下注射 3~5分かけて投与
内服	ポマリスト:4mg/body/日	mg/日	day1-21	1日1回 眠前

3-6コース目

プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン1000mg)※1	day1,15	1時間前	※1 1コースday8以降 モンテルカストは任意
		day1,2,8,9,15,16,22,23 [75歳未満] day1,8,15,22 [75歳以上]	1日1回 ※2	
内服	レナデックス:20mg/body/日※3	mg/日	day1,2,8,9,15,16,22,23 [75歳未満] day1,8,15,22 [75歳以上]	※2 レナデックス (ダラキューロ投与日)は、 ダラキューロ投与の1時間前 に投与
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ:1800mg/body	mg	day1,15	皮下注射 3~5分かけて投与
内服	ポマリスト:4mg/body/日	mg/日	day1-21	1日1回 眠前

7コース目以降

プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン1000mg)※1	day1	1時間前	※1 1コースday8以降 モンテルカストは任意
		day1,2,8,9,15,16,22,23 [75歳未満] day1,8,15,22 [75歳以上]	1日1回 ※2	
内服	レナデックス:20mg/body/日※3	mg/日	day1,2,8,9,15,16,22,23 [75歳未満] day1,8,15,22 [75歳以上]	※2 レナデックス (ダラキューロ投与日)は、 ダラキューロ投与の1時間前 に投与
プレメディおよびレナデックス投与後1時間経過して、ダラキューロの投与を開始する				
①	ダラキューロ:1800mg/body	mg	day1	皮下注射 3~5分かけて投与
内服	ポマリスト:4mg/body/日	mg/日	day1-21	1日1回 眠前

※3 75歳以上の患者には、レナデックス20mg/週で投与することとし、ダラキューロ投与日は前投薬としてレナデックス20mgを投与する。

◆ダラキューロによるinfusion reactionを軽減させるために、投与開始1~3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与すること。(当院の運用としては、前投薬およびレナデックスの投与は1時間前を基本とする)

また、遅発性のinfusion reactionを軽減させるために、必要に応じてダラキューロ投与後に副腎皮質ホルモン等を投与すること。

◆慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者では、ダラキューロ投与後に遅発性を含む気管支痙攣の発現リスクが高くなるおそれがある。

ダラキューロの投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。